

【編集後記】

『部落解放研究』14号をお届けする。経済の新自由主義と政治の反動化の最中、部落差別や人権侵害が頻出している。そのような時だからこそ、部落解放・人間解放をめざす研究はどうあったらいいのか。わが研究所や本誌になができていいのか。本号は6編の論文から成る。まず、部落問題研究として4本の論文をいただいた。山本論文では、まさに「いま」に切り込むために、山本政夫を対象に、戦前の融和運動の歴史的・思想的な（批判的）評価と議論をいただいた。神戸論文では、宗教と社会、すなわち、仏教教学における信心の問題を対象に、信仰の社会性をめぐる議論と視座の提起をいただいた。齋藤論文では、今日の結婚差別にみる差別（者）の「論理」と、それへの対抗の論理の困難について考察をいただいた。伊藤論文では、被差別部落への在日コリアンの居住過程の分析と、部落コミュニティ研究への新たな課題提起をいただいた。最後に、現代の危機について、憲法・戦争をめぐる問題が議論された。坪田論文では、現代日本の全体状況から、戦争への道を歩む（かにみえる）政治と思想の危機について批判的な考察をいただいた。青木論文では、戦没学徒の生と死の葛藤と、そこにみる思想の問題について議論された。6本の論文のいずれも、現代日本の政治・思想の危うさに対する危機意識のもと、現・近代のそれぞれの問題場面に切り込んだ作品で、本誌にふさわしい論文集成となっている。それぞれの問題提起を受け止め、研究会活動などで議論を深め、次の研究活動に繋いでいくことができればと思う。読者の皆さんには、感想・批評などをいただき、議論の前進にご助力をいただければ幸いである。

(A)